



最近の眼科医療について

～新・眼科主任部長が着任しました～

眼科主任部長 つじかわ かおる
辻川 薫



眼科主任部長交代のお知らせ

こんにちは。平成27年7月1日より、主任部長として赴任いたしました辻川薫と申します。前任の白井は非常勤医師として、継続して診療を行っており体制は今までと大きくは変わっていません。川口、谷井の常勤医師と非常勤の植が担当させていただきます。私は、平成18年10月から平成21年12月まで当院で勤務していた経験がありますが、以前のような、単なる一医師としてではなく、今回は責任ある立場という事で、身の引き締まる思いです。スタッフと共に一層努力してまいります。よろしくようお願い申し上げます。

新しく、様変わりする眼科医療

さて、皆様、眼科医療は、最近20年ほどで、随分と様変わりしています。

白内障手術

白内障手術は、折りたたみできる眼内レンズの登場により、どんどん切開幅が小さくなり、現在当院では、2.2ミリが主流です。通常の単焦点レンズに加え、乱視矯正を同時に行えるトーリックレンズを採用しております。しかし、保険診療外である、多焦点レンズは当院では扱っておりません。ご希望の方は、取り扱い機関へご紹介させていただいております。

最新治療など

新聞などで話題になっているiPS細胞に関して、眼科領域では網膜への移植手術が大きく取り上げられています。夢の細胞に期待が膨らみますが、まず、細胞を作成する工程だけでも大変な手間と時間と、コストがかかっているという事はご存知でしょうか。現在、移植された網膜を含めた眼の反応や癌が発生しないかなど、悪影響がないかどうかを確認している段階です。移植によりどれくらい視力が改善したかどうかというレベルの検証までの道のりはまだ遠く、一步一步進んでいるというのが現状です。また、網膜だけではなく、角膜領域でも研究が続けられています。

iPS細胞以外では、人工網膜という言葉をお聞きになったことはありますか？視力を失った方に対して、電極を付けたチップを眼球に埋め込む手術をしており、チップの性能はどんどん改良され、既に手術を受けられた患者さんもおられます。

レーシックなど

一方、以前話題になったレーシックなどの近視矯正手術は、今も続けられています。この治療には、エキシマレーザーを使用していますが、近視だけでなく、乱視矯正、角膜混濁への治療もおこなわれています。そして、次世代のレーザーとして、フェムトセカンドレーザーというのが登場しました。このレーザーでは、白内障手術の行程を途中まで行い、ほぼ最後の仕上げのみ人の手で行うという事が可能になっています。



眼科スタッフ一同、努力してまいります！

地域に根差した当院での取り組み

残念ながら、これらは一部の大学病院レベルで行われている医療で、当院では、眼科一般診療を行っております。手術は白内障が中心で、翼状片や瞼の手術も含め、年間500件ほど施行しておりますが、網膜剥離などの網膜疾患で手術が必要な方は、他院へご紹介させていただいております。今後も地域の眼科医療に貢献するため、頑張ります。よろしくようお願い申し上げます。

小児食物アレルギーの最近の考え方

～小児アレルギー教室を振り返って～

小児科 医 員 川村 孝治 かわむら こうじ
部 長 藪田 玲子 やぶた れいこ
主任部長 三木 和典 みき かずのり



たくさんの質問にも
丁寧に応答

高まる食物アレルギーへの関心

去る10月17日に第58回市民公開講座・第3回小児アレルギー教室を開催しました。当日は多くの市民の方に参加していただきました。医師・栄養士・看護師・教育委員会の先生から、それぞれ食物アレルギーの話をし、参加者の皆さんからは、質問もたくさんしていただきました。皆さんの食物アレルギーに対する関心の高さがうかがえる会だったと思います。

アレルギー疾患は増加の一途

現在、小児科領域のアレルギー疾患は増加の一途をたどっており、食物アレルギーも例外ではありません。食物アレルギーとは「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介する生体にとって不利益な反応」と定義されており、具体的にはアレルギーを起こす原因食物を摂取したときに、免疫反応によって皮膚症状(湿疹・蕁麻疹)、消化器症状(下痢・腹痛)、呼吸器症状(咳・呼吸困難)を起こすものをいい、時には、血圧低下などの強い全身反応であるアナフィラキシー(ショック)を起こすことがあります。アレルギーを起こす原因食物は卵、牛乳、大豆、小麦に加えて、ピーナッツ、甲殻類が代表的なものです。

変わりつつある食物アレルギーの考え方

食物アレルギーがどのように発症するのかについては、完全に詳細が解明されているわけではありませんが、食物アレルギーの考え方は、最近の15年ほどで大きく変わりつつあります。従来は経口摂取によって、腸管で食物抗原に感作し発症すると考えられてきましたが、最近、食物アレルギーに対する感作は、経口曝露ではなく経皮曝露によって起こるのでないかという仮説が提唱されています。つまり環境中に浮遊しているアレルギーが、皮膚から体内に入り感作し、次に口から同じアレルギーが入ってきたときにアレルギーが発症するという考え方です(あくまでも現時点では仮説です)。この経皮感作を予防するためにはアレルギーの元が皮膚から入り込まないようにすることが大切です。湿疹があれば積極的に治療をし、その上保護のために保湿剤を塗ってバリア機能を強化する必要があります。

食物アレルギーの診断は、食物除去試験と経口負荷試験によってなされます。皮膚テストや血液検査のみで食物アレルギーと決めつけてしまわないことが大切です。

治療の基本を、正確な診断から

現在の治療の基本は「原因物質の同定を含めた正確な診断に基づいた、必要最小限の食物除去」となっています。つまり、アレルギー検査で陽性だからといって、やみくもに除去するのではなく、すでに症状無く食べられているものは、積極的に摂取を続けることが大切です。また負荷試験の結果から除去になった食物でも、ある一定期間最小限の除去を行い、アレルギー検査の結果を参考にして再度負荷試験を行って、食物除去が解除できるかを確認していきます。

さらに新しい治療方法として経口免疫療法と呼ばれる治療法が提唱されてきています。これは症状が出ない程度の量の原因食物の摂取から開始して、その量を段階的に増量し、最終的に食べられるようにする方法です。ただし、まだ研究段階の方法でガイドライン上も推奨はされておらず、当科でも基本的には行っていません。

今後も子どもたちの快適な生活をサポート

食物アレルギーだけでなく、気管支喘息やアトピー性皮膚炎など、アレルギー疾患は患児のQOLを大幅に低下させる原因となります。当科ではガイドラインに則った正確な診断および適切な治療に努めており、今後も子どもたちのより快適な生活のサポートを行っていきます。

伝統あるリハビリテーションに、「作業療法」をプラス!

当院はじめての作業療法士です

市立伊丹病院のリハビリテーション室の歴史は国内でも古く、昭和39年に開設されてから半世紀が経過しました。当院での手術件数は年々増加し、そのため、早期に、かつ安全に、家庭復帰、社会復帰をサポートすることが更に求められ、日常生活動作に介入する事を専門とする作業療法士の必要性が高まりました。平成27年4月に当院初の「作業療法士」が加わり、新たに作業療法を加えたリハビリテーションがスタートしました。

作業療法がプラスされると

「作業療法士」という言葉を初めてお耳にされる方も多いかと思います。人が生活を営む中で、セルフケア・家事・仕事・余暇・地域活動などを「作業」ととらえ、その作業に介入していくのが作業療法士です。

当院では、経験豊富な理学療法士により、入院されてから退院されるまでの間に、筋力・体力・基本動作の

向上を図るさまざまなリハビリをしています。その上で作業療法士が生活に密着した指導・練習を行っています。

患者さまに安心していただくため、リハビリ時の状態だけでなく、主治医や病棟スタッフと連携を図り、情報共有を行っています。その上で、身体的基本的な機能回復に向けてリハビリを行っています。

はじめまして、
作業療法士の上田育子です!



基本的な能力
運動神経機能

応用的な能力

食事、トイレ、生活
で行われる活動

社会的な適応能力

地域活動への参加、
就労・就学

作業療法をプラスして
3つの能力を維持・改善!



日常生活に即戦力!

手術を乗り越えられた患者さまが、無事に退院され日常生活に戻れる。この時に、以前よりも生活が充実し、スムーズに社会復帰できるよう、様々な生活のシーンを想定して作業療法を実施しています。

当院では人工関節置換術後、頸椎術後、脳血管障害の患者さまへの介入を行っています。特に、人工股関節の患者さまに対しては、術前から、脱臼予防のための動作指導・練習を行います。術後は退院に向け、個別に生活環境を確認させていただいた上で、それぞれの生活場面に応じた動作の練習に取り組みます。床に座る動作や入浴動作などもあり、



可動式の床で、ご自宅の浴室に合わせた練習も

「教えてもらっておいて良かった、家に帰っても安心!」との患者さまのお声も。また、家事についても、より負担の少ない生活スタイルを提案しています。少しの工夫を加えるだけで、術後の生活がより安全で快適になる、すぐに使える「作業のプロ」の具体的なアイデアが満載です。

退院後の生活への架け橋に

リハビリテーション室では、患者さまの体調・状態に配慮するため、常に入院病棟・ご家族さま、他職種との連携を大切にしています。作業療法士を新たにスタッフに加えたことにより、退院後の生活により一層役立つよう、スタッフ全員がチームで指導にあたっています。

床に座る動作の中で、注意点を確認



市立伊丹病院からのお知らせ

産婦人科病棟リニューアル 分娩再開しました！

産婦人科病棟の分娩室が、きれいな個室トイレを備えた、陣痛から分娩・回復期を同じ部屋で過ごせるLDR仕様の分娩室にリニューアルされました。更に新生児集中治療室(NICU)も明るく、きれいな部屋に整備されました。

文責：経営企画室 広報担当 中村 隆



←LDR仕様の分娩室

分娩室内のトイレ
↓



↑新生児集中治療室(NICU)

お祝いの気持ちを込めた「お産食」メニュー ～野菜をふんだんに使用、産後の毎日を豊かに！

病院直営だから出来る！栄養管理の取り組み

厚生労働省が出されている日本人の食事摂取基準を基に、当院の院内規約を作成しています。献立は、バランスの良い糖尿病食を基本にしています。栄養管理の特徴としまして、調理師が献立作成をして栄養士が栄養価の微調整をするといった手法を使っております。これは、調理業務を直営で行っているからこそ出来ることです。

お料理の内容としましては、メイン料理を曜日ごとに変えています。食べて美味しい、見ても美味しい料理を目指しています。そして、不足しがちな栄養素を補うために強化米(朝：カルシウム米、昼：ビタミン米、夕：葉酸米)を使用しています。また、手作りデザートには、パインファイバー(食物繊維)、希少糖(天然のでんぷんから抽出したプシコースを含有した糖分)を使っています。



栄養管理担当主幹
いわさ みなこ
岩佐 美奈子



↑夕食献立一例

米食 若鶏の照り焼き季節の野菜添え
麻婆豆腐 中華風卵蒸し なすのくず煮
きゅうりと大葉の酢の物 季節の果物



月曜日

季節のお野菜と
若鶏の筑前煮



火曜日

鱈と野菜の
南蛮漬



水曜日

若鶏の照り焼き
季節の野菜添え



木曜日

松花堂弁当



金曜日

牛フィレ肉の
ステーキ
蜂蜜ソースがけ



土曜日

秋鮭の
ホイル焼き



日曜日

グリルハンバーグの
おろしポン酢添え

医師 人事異動



退 職

平成 27 年 8 月 31 日付

平成 27 年 9 月 30 日付

採 用

平成 27 年 10 月 1 日付

アレルギー疾患リウマチ科 専攻医	ひょうどう ゆうか 兵頭 優佳	皮膚科 副医長	ふるかわ さやか 古川 紗綾佳	消化器内科 部長	さじ ゆきこ 佐治 雪子
		乳腺外科 主任部長	ばば まさし 馬場 將至	整形外科 医員	やまぎし あきら 山岸 晃
		小児科 部長(非常勤として継続)	かみお のりこ 神尾 範子	小児科 専攻医	やまぐち ともひろ 山口 智裕

～保険医療機関では、患者様に保険証の提示をお願いしております。

月初めには初診受付で保険証の提示、確認にご協力くださいますようお願いいたします。～